

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
経済政策学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023, 2024	1	必修	1
社会福祉学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023, 2024	1	必修	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023, 2024	1	必修	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
ICT スキル I (多文化)	前期(半年)	A02100524752A

教員名
江川 明美

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	WEBサイトの構築やプログラミング、PC、ネットワーク管理において蓄積した実務経験を活かし、実践的な情報通信技術（ICT）スキルを解説します。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要
<p>本科目は、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）の恩恵とリスクを理解した上で、学生生活及び社会生活において適切なデバイスやサービスを選定し活用するための基礎知識を身につける。ICTを活用するための具体的手法を学ぶことで、以後の学習やキャリア形成において求められるICT利活用に関する基礎的知識とスキルを修得する。また、情報メディアを主体的に読み解いて必要な情報を引き出し、その真偽を見抜き、評価・識別できる力としてのメディアリテラシーを修得する。合わせてレポート作成等に求められるタイピング、文書作成およびプレゼンテーションソフトウェア使用のための基礎技能を身につける。</p>

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
<p>本学入学前に情報処理・パソコン関連の資格を取得している場合は資格名・級がわかる書類（合格通知のコピー等）を準備すること。また、学習に使用できるパソコンを所有している場合は、OSの種類とOffice（Word、Excel、Power Point）の有無とバージョンを確認しておくこと。</p>

学習上の到達目標	授業の到達目標														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>達成評価指標</th> <th>レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技術力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションスキル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会的関係形成力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>多文化理解力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>問題解決力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自己実現力</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	達成評価指標	レベル	知識・技術力		コミュニケーションスキル		社会的関係形成力		多文化理解力		問題解決力		自己実現力		<ol style="list-style-type: none"> ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）の恩恵とリスクを理解する。 生活において適切なデバイスやサービスを選定し活用するためのICTに関する基礎知識を身に付ける。 タイピングの基礎技能を身につける。 文書作成（Word）、表計算機能（Excel）、プレゼンテーション（Power Point）ソフトウェアを使用するための基礎技能を身につける。
達成評価指標	レベル														
知識・技術力															
コミュニケーションスキル															
社会的関係形成力															
多文化理解力															
問題解決力															
自己実現力															

講義等の計画

第1回 テーマ :	・オリエンテーション ・ICTに関する履修者アンケート ・タイピング ・classroomについて
第2回 テーマ :	・Windowsの基礎知識 ・ICTスキルとは
第3回 テーマ :	・情報モラル 電子メールのマナー ・Gmailの活用
第4回 テーマ :	・Wordによる文書処理①Wordの基礎知識 ・Wordによる文書処理②文章の印刷とページ設定
第5回 テーマ :	・Wordによる文書処理③表の作成と編集 1 ・Wordによる文書処理④文書の編集2 ・Wordによる文書処理⑤タブ機能とインデント機能
第6回 テーマ :	・表の作成と編集
第7回 テーマ :	・Wordによる文書処理⑥拡張書式設定 ・表現力をアップする
第8回 テーマ :	・長文作成をサポートする ・ビジネス文書の基礎知識
第9回 テーマ :	Word確認テスト
第10回 テーマ :	・Power Pointの基礎知識 ・プレゼンテーションの作成
第11回 テーマ :	・Excelの基礎知識① データの入力・編集 ・Excelの基礎知識② 表の作成 ・Excelの基礎知識③ いろいろな数式
第12回 テーマ :	・Excelの基礎知識④ グラフと図形① ・Excelの基礎知識⑤ データベースの利用
第13回 テーマ :	・グラフと図形 ・データベースの利用
第14回 テーマ :	Excel 確認テスト
第15回 テーマ :	総括 ・期末レポート

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

本科目は、演習形式の科目（週1回開講により半期で1単位）である。授業外学習として指示された演習課題は解答データを作成し指示に応じて提出すること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に提出した課題データについては、次回以降の授業時間の演習において修正箇所等を指示する。

この授業に含むアクティブラーニング要素

		具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input type="checkbox"/>	
ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/>	
グループワーク	<input type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

提出課題（レポート、Word・Excel・PowerPoint等の演習課題）を80点、授業への参加状況を20点（欠席は4点減点、遅刻は時間に応じて減点）として評価する。3分の1を超える欠席がある場合、単位が認定されない
ので注意すること。

教科書

[30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応](#) 著者：杉本くみ子 大澤栄子 出版社：実教出版
出版年度： ISBN：978-4-407-3

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・ 本科目は週1コマ全15回の授業により構成される。一定以上の情報処理スキルを有する場合は習熟度に応じた個別課題を用いる場合がある。
- ・ CS検定試験資格取得について、受験を希望する場合は、語学情報センターにて申込みを行う。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018	2	必修	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020	2	必修	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	2	必修	1
経済政策学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023	2	選択	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	2	必修	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2020, 2021, 2022	2	必修	1
社会福祉学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023	2	選択	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2019, 2020, 2021, 2022	2	必修	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023	2	選択	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
就職活動スキル I	前期(半年)	A02200724004A

教員名
山口 晴信

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	株式会社AIM 代表取締役 長崎大学 非常勤講師 (キャリア教育) 長崎純心大学 非常勤講師 (キャリア教育) 長崎総合科学大学 客員研究員 非常勤講師 (キャリア教育) 上記のほか、多数の大学でキャリア講演実施 企業向け・保護者向けの採用支援講演やコンサルも多数実施 採用担当者としての経験もあり キャリア教育経験、25年以上接点を持ってきた学生、のべ数千人 従来からの就活のやり方で苦しんでいる学生へ新たな手法を提唱 「抽象的やりたいこと」から始めるキャリアデザインの意義と重要性を解説する これまで多くの学生と企業(公務員含む)とのマッチングを成功させてきた経験をもとに、キャリアに対する向き合い方、心構え、成功例・失敗例、その法則性や科学的根拠なども解説する 元 長崎県キャリアコーディネータ

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要
「就活」というと「どんな会社があるのだろう?」と、視点を外に向けたくなりますがその前に必要な事があります。

それは、「自分は何者なのか?」という問いに対する答えです。

究極の問いですが、しっかりとした答えを出し、言語化できるようになることをこの授業では目指します。それにより「自分に自身を持てるようになる」こと、これが就活におけるスキルの第一歩です。

「やりたい仕事分からない」、多くの学生がこのような悩みを持っていますが、それは自然なことでも全く問題ありません。キャリア選択や就活は学生にとって本来難しいものです。将来を考えるための環境も年々多様化・複雑化し、それに対応していくのも簡単ではありません。本授業ではこれらを俯瞰的に見つめ、今一度自身と向き合ってみて「本当に望む将来とは何か、自身が役に立ちたい場とかは何か」をゼロから考え言語化していきます。よって、「今はまだ分からない」というゼロベース状態での受講を歓迎します。

就活がコワイ、自信がない、やりたい事が分からない、自分にあう仕事分からない、という人には特に役立つ授業です。無理して自分を作るのではなく、本来ある「素の自分」を掘り起こして言葉で定義し「ありのまま」で進めるキャリア選択のやりかたを実践的に学びます。

授業のおおまかな流れとして、

- ・自身の考えや価値観を言語化（不完全かつ、仮説でいい）
 - ・企業を迎え、価値観やミッションに触れる
 - ・自身の考えや価値観を再考察
 - ・グループワークにて自身の考えや価値観ブラッシュアップ
- …というイメージです。

ここでの学びは、あなたが知っている従来からあるキャリア選択や就活とは異なる新たな方法になるでしょう。なかなかイメージしにくいかもしれませんが、学べばきっと気持ちが楽になり、自信につながっていきます。

そうすると、

- ・自信を持ってエントリーシートを書けるようになる
- ・自分の考えを堂々と主張できるようになる
- ・面接がコワくなくなる
- ・目指す道が明確になってくる

というようなことが起こってきます。

「自分は何者なのか?」この究極の問いにきっと答えを出せるようになるでしょう。これは今後の就活で最初の一步を踏み出す際、あなたを助ける勇気となってくれます。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

特にナシ

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	2	自分自身のことを言葉で表現できる、あるいは言語化のきっかけ作りができる
コミュニケーションスキル	2	自身のキャリアについて、現時点での考えや展望(あいまいでもいい)を言語化できる
社会的関係形成力	2	グループワークやディスカッションを通じ、自身の考えに向き合うことができる
多文化理解力	2	実際に働く人の価値観やミッションに触れ、考えを発展できる
問題解決力	2	キャリア選択に必要な自分軸を言葉にし、自信へのきっかけ作りができる
自己実現力	2	完璧な人間でなくてもいいことを理解できる 就活の流れやルールを理解できる 就活や将来への選択において、恐怖感や抵抗感を緩和できる

講義等の計画

第1回 テーマ :

キーワード : 導入

<p>授業全体像と流れ、意義、最終的な着地点を説明。各種科学的キャリア理論および、キャリアデザインに必要な「抽象的やりたいこと」について解説。キャリアに向き合うにあたり、自身の「価値観」「原動力」を言語化すること、さらに社会人の「価値観」「原動力」、「ミッション」等に触れ自身と比較すること、その後、もう一度「価値観」「原動力」を構築しなおし、将来への「ミッション」に落とし込んでいく意義を理解する。</p>	
<p>第2回 テーマ： 変化が激しい時代、多様化の時代、AIなどによる自動化が進む時代に必要とされる人材について学ぶ。社会から求められる人材になるためには普段の学業以外に必要なことがあり、それを「もう一つの力」として解説。「勉強はできるが、勉強しかできない人」にならないために。</p>	<p>キーワード：必要とされる人材</p>
<p>第3回 テーマ： 自己理解を深めるための「原動力」言語化ワーク。目に見えなかった自身の潜在的な思いを顕在化することで自身を再発見する。この原動力とそこに至った背景こそがキャリア選択に必要な「軸」の種になることを理解する。</p>	<p>キーワード：原動力の言語化</p>
<p>第4回 テーマ： 自身にはなぜその「原動力」が存在するのか、そこに至るまでの「想い」をストーリー化する。手段として、流れを伴ったフレームワーク（PREP法）を活用しながら言葉にする。理論を伴った大まかなストーリーを構築することにより、自身の「軸」についての根拠を顕在化し、自身の中に落とし込んでいく。さらに、それはどんな社会的意義、どんな社会課題の解決と関連がありそうかについて考え、未来の職業をイメージしてみる。 ~~</p>	<p>キーワード：原動力に至ったストーリー</p>
<p>第5回 テーマ： グループ内でシェアし、互いにフィードバックをし合うことで自身の想いを客観的に見る。</p>	<p>キーワード：ストーリーのシェア→軸</p>
<p>第6回 テーマ： 第5回までの内容を踏まえ、顕在化してきた自身の想いはどんな社会的意義、どんな社会課題の解決と関連がありそうかについて考え、未来の職業をイメージしてみる。さらにシェアし合い、客観的意見も取り入れてみる。最終的に、将来の自身の役割（ミッション）について仮説に落とし込む。 また、次週から迎える企業のプレゼンを視聴する意義、目的について理解する。</p>	<p>キーワード：ストーリーから自身のミッションについて仮説構築へ</p>
<p>第7回 テーマ： 企業を迎え、自社の社会的役割や存在意義、どのような社会課題に向き合っているか、などの「ミッション」についてプレゼンしてもらう。また、企業のミッションに至った背景や、今後世の中にどんな影響を及ぼしたいのか、仕事への美学、さらには未来へのビジョン等も話してもらう。 学生は以上を聞き、事前に定義した自身の原動力やその背景、ミッション（仮説）との比較をしながら自らに向き合う。共感できる点や、自身と接点があるとすればそれは何か、等について言葉にする。 企業プレゼン：30分×2社</p>	<p>キーワード：企業プレゼン1</p>
<p>第8回 テーマ： 同上 企業プレゼン：30分×2社</p>	<p>キーワード：企業プレゼン2</p>
<p>第9回 テーマ： 同上 企業プレゼン：30分×2社</p>	<p>キーワード：企業プレゼン3</p>
<p>第10回 テーマ： 同上 企業プレゼン：30分×2社</p>	<p>キーワード：企業プレゼン4</p>
<p>第11回 テーマ： 同上 企業プレゼン：30分×2社</p>	<p>キーワード：企業プレゼン5</p>
<p>第12回 テーマ： 同上 企業プレゼン：30分×2社</p>	<p>キーワード：企業プレゼン6</p>
<p>第13回 テーマ：</p>	<p>キーワード：振り返り1</p>

<p>企業のミッションや働く人の価値観・原動力に触れ、どのようなことに共感したかをディスカッション。さらに、事前に言語化していた自身の原動力や価値観、ミッション（仮説）になんらかの影響があったかを考える。その後、自身の深まった考えを将来はどのように活かしたいか、どんな社会課題と関連付けられるか、という自身のバージョンアップしたミッションへと結論付ける。また、将来は自分自身が世の中にどんな影響を与えているか、その時自身はどうなっているかを想像し、イメージを固める。</p>	
<p>第14回 テーマ： 今後の就活の流れやルール、その時々に必要な行動指針などを説明。 最近よく聞く言葉に「コスパ」や「タイパ」などがあるが、就活はこの考え方と対極にあることを理解する。 一見、自身と関係なさそうな場面に運命の出会いがあったりすが、これらは「計画的偶発性理論」という科学で説明可能な事を理解する。これらを踏まえ、今後の大学生活をどのようにしていくかを設計する。</p>	<p>キーワード：振り返り2</p>
<p>第15回 テーマ： あらためて、「やりたいことは何か」を考え言語化する。そして、それは第1回授業の時とどう変わっているかを振り返る。またこれらを踏まえ、自身が考えていたことはこれまで約20年間生きてきた中で見聞きした情報のみの範囲で考えていたことを理解する。そのうえで、視野を広げるにはどうすればいいのかをディスカッションし今後の具体的な行動に繋げる。 後半はこれまでの授業内容を大きく振り返る。人生100年と言われる中、「キャリア」を単なる職業上の問題と捉えるのではなく、生きていく中でどのような意味を持ち、どのような位置づけにしたいかを考える。 後期の授業は前期の内容を踏まえ、さらに大きく発展することを説明する。</p>	<p>キーワード：まとめ</p>

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

予習：自身の職業観、キャリアへの向き合い方、キャリア選択の基準、役に立ちたい形、やりたい仕事などについて現時点の考え（あやふやでもよい）を箇条書きでリストアップする（1h）
身近な大人に現在の職業に就いた理由や経緯についてインタビューし、箇条書きにまとめる（1h）

復習：予習で記述した内容と、授業中に改めて定義した内容との差に改めて向き合う。自身で気づけていなかったことは何なのか、自身に足りなかった分は何なのか、それにより新たに生まれた考えは何なのかをリストアップする（1h）
授業内で学習した各種理論や科学的根拠について、インターネットなどで調べて理解を深める（1h）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

GoogleClassroomからの小レポートやふりかえりについて、必要に応じて次回の授業で解説やフィードバックを行う

この授業に含むアクティブラーニング要素

		具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input checked="" type="checkbox"/>	<p>企業や公的機関などからゲストを迎え、自身になかった価値観やミッション等に触れる 自身の考えやその背景について互いにシェアし合い、フィードバックを得ることでブラッシュアップを図る</p>
ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/>	
グループワーク	<input checked="" type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

授業参加度 40%

アウトプットやディスカッションへの積極的参加、毎回の小レポート 20%

自身の原動力、キャリア感、抽象的なやりたいことの言語化を伴う最終レポート課題 40%

教科書

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

1 [世界一やさしい「やりたいこと」のを見つけ方](#)

2 [科学的な適職](#)

履修上の注意事項や学習上の助言

対面での授業を前提としていますが、新型コロナウイルスの感染状況等によるやむを得ない事情がある場合、オンライン授業に切り替えることがあります。

キャリア選択に不安がある人、やりたい仕事がよく分からない人、就活が不安な人はぜひ受講して下さい。理論習得や実践経験が積めるだけでなく、気持ちも楽になれます。もちろん、就活にもかなり役立ちます。※各回の内容は、受講者数や参加企業数等によっては多少アレンジする場合があります。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018	1	選択	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020	1	選択	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	1	選択	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	1	選択	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2020, 2021, 2022	1	選択	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2019, 2020, 2021, 2022	1	選択	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
英語 I B (再履修)	後期(半年)	

教員名
池田 祐香

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	高等学校での教育経験がある授業担当者が、その経験を活かして、リメディアル教育の手法を取り入れた授業を展開する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要
日常的なテーマを取り上げ、4技能（リーディング・ライティング・リスニング・スピーキング）を取り入れたアクティビティを通して、基礎的な英文法の習得、使用頻度の高い語彙や表現の習得を目指す。動画視聴、検定試験対策も取り入れる。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
英語 I A

学習上の到達目標	授業の到達目標														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>達成評価指標</th> <th>レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技術力</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションスキル</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>社会的関係形成力</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>多文化理解力</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>問題解決力</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自己実現力</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	達成評価指標	レベル	知識・技術力	1	コミュニケーションスキル	1	社会的関係形成力	1	多文化理解力	1	問題解決力	1	自己実現力	1	日常的な場面で使用される英語を理解し、状況に応じて適切に自己表現できるようになる。CEFR A2レベル相当の英語能力を身につける。
達成評価指標	レベル														
知識・技術力	1														
コミュニケーションスキル	1														
社会的関係形成力	1														
多文化理解力	1														
問題解決力	1														
自己実現力	1														

講義等の計画

第1回 テーマ： オリエンテーション	
第2回 テーマ： 文の種類	
第3回 テーマ： 時制（1）現在形・現在進行形、過去形・過去進行形、未来形	
第4回 テーマ： 時制（2）完了形	
第5回 テーマ： 助動詞（1）能力・可能・許可、必要・義務・当然・忠告、依頼・提案・勧誘、可能性・推量	
第6回 テーマ： 助動詞（2）助動詞+have+過去分詞、助動詞を含む慣用表現	
第7回 テーマ： 態	
第8回 テーマ： 中間試験	
第9回 テーマ： 不定詞	
第10回 テーマ： 動名詞	
第11回 テーマ： 分詞	
第12回 テーマ： 関係詞	
第13回 テーマ： 比較	
第14回 テーマ： 仮定法	
第15回 テーマ： まとめ・最終試験	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

復習課題・検定試験対策課題等、約2時間程度の授業外学習を必要とする。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

添削したうえで返却

この授業に含むアクティブラーニング要素

		具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input type="checkbox"/>	グループ課題を与えることがある。
ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/>	
グループワーク	<input checked="" type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

受講態度及び振り返り15%
 復習課題15%
 資格試験対策課題20%
 中間試験・最終試験50%

教科書

ハンドアウト配布

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

辞書

履修上の注意事項や学習上の助言

英語学習においては授業外学習が欠かせないので、課題をこなす必要があることを心得ること。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
経済政策学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024	1	必修	1
社会福祉学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024	1	必修	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024	1	必修	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
ウェルビーイング	前期(半年)	A03101524702Z

教員名
斐 瑠俊

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	第2回から第8回にかけての7回分の授業について、学外の各分野の専門家・実業家などをゲストスピーカーとして招き講義を行う。本科目は中野伸彦教授との共同運営。詳しくは下記「講義等の計画を参照。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要
<p>国連がWHO憲章に掲げている「Well-Being」の定義は「単に疾病または病弱の存在しないことではなく、人種、宗教、政治的または経済的もしくは社会的条件の差別なしに万人の有する基本的権利の一つである」として「完全な肉体的、精神的および社会的福祉の状態」をさしている。世界中のすべての人々がこの状態を享受するためには世界の平和と安全が確保されなければならないので、実現のためには個人や国家による様々な努力や協力が不可欠となる。その意味ではSDGsの目標とも深く関わる概念といえる。この目標をあらためて個人レベルでみていくと「人がよくあろうとすること、よりよく生きること、生きつづけようとする」が起点になる。この想いが個人を超えて家族や地域、企業や組織、さらには国境や人類にまで拡張され共有されるならば、個人の「よくあろうとする」この想いは、よりよい地域づくりやまちづくり、環境づくりに向けた指標と合致していくことになる。</p> <p>そこで、本講義では、普段から「よりよく生きよう」とされている人々、あるいはSociety5.0やDX時代を見据えた経営者など、様々な分野で「いきいきと生きておられる」地域の活動家や実践者に来学いただき、ゲストスピーカーとしてご自身の生き方や活動内容を語って頂くことを通して、学生自身のレジリエンス(復元力や回復力や対応力など)やエンプロイアビリティ意識の向上などをはかり、今後の学習目標の絞り込みに役立てる。また大学においても、こうした活動家や実践者との学内外を通じた協働プロジェクトを組織化したり、プラットフォーム的な連携づくりの可能性なども模索していきたい。</p>

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
.

学習上の到達目標	授業の到達目標										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>達成評価指標</th> <th>レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技術力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションスキル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会的関係形成力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>多文化理解力</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	達成評価指標	レベル	知識・技術力		コミュニケーションスキル		社会的関係形成力		多文化理解力		1. 人がよくあろうとする、よりよく生き続けようとするときの行動指針を学ぶ。 2. 地域の活動家や実践者の生き方を通して、自らの行動指針やレジリエンスを養う。 3. 「ウェルビーイング」を目標に据えた事業経営や地域づくりの実践課題を見出す。
達成評価指標	レベル										
知識・技術力											
コミュニケーションスキル											
社会的関係形成力											
多文化理解力											

問題解決力
自己実現力

講義等の計画	
第1回 テーマ： (5月31日)オリエンテーション（「ウェルビーイング」を学ぶ意義と目的） ベイ・中野	キーワード：学習意義と目的
第2回 テーマ： (6月14日)盲ろうの世界を知る（仮称） 荒木 秀信氏（長崎盲ろう者友の会・あかり会員）	キーワード：ノーマライゼーションとは
第3回 テーマ： (6月21日)LGBTと多様性～人権尊重の社会づくり（仮称） 儀間 由里香氏（Take it!虹代表）	キーワード：人権尊重の社会づくり
第4回 テーマ： (6月28日) ボランティアで災害に強いまちづくりとは（仮称） 旭 芳郎氏（日本防災士会県支部顧問）	キーワード：地域防災力の向上
第5回 テーマ： (7月5日) その人らしい人格と人権の尊重、豊かなかがやきのある暮らしの実現（仮称） 貞松 徹氏（社会福祉法人ながよ光彩会理事長）	キーワード：人権尊重、地域の中で生活
第6回 テーマ： (7月12日)ちゃんぽんと街づくり（仮称） 陳 優継氏（四海楼社長）	キーワード：まちづくり
第7回 テーマ： (7月21日)ゲームが世界を変える（仮称） 小池 勇琉氏（ゲームクリエイター）	キーワード：ゲームと世界
第8回 テーマ： (7月21日)動物愛護活動発・共助のまちへ（仮称） 大津 かおり氏〔(一社)ネコノタメナラ代表〕	キーワード：殺処分ゼロをめざして

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容
<p>予習：予想される講義内容について、関連文献やインターネット等を活用し事前学習を行っておく</p> <p>復習：講義で使われた専門用語を辞書等で調べ、講義ノートに記載する</p>

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>Googleクラスルームを通して、振り返りの内容について、その都度必要に応じてコメントを行う。</p>

この授業に含むアクティブラーニング要素		具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input checked="" type="checkbox"/>	第2回から第8回にかけて、学外の各分野の専門家・実業家などをゲストスピーカーとして招き講義を行う。質疑応答を通して双方向の学び合いを行う。
ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/>	
グループワーク	<input type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験
<p><input type="radio"/> 実施している <input checked="" type="radio"/> 実施していない</p>

成績評価基準・方法

- ① 本講座への参加度（出席や質疑応答などへの積極性など）20%
 - ② 第2回～第8回の振り返りの提出 70%
 - ③ 全講座終了時に総括レポートの提出 10%
- ※ 総括レポートの説明は、第7回の際にクラスルームを通して掲示し、説明を行う。

教科書

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

履修上の注意事項や学習上の助言

教科書特になし。必要に応じ関連資料等を配布する。

毎回、振り返りのための小レポートや課題等を提出することで出席の確認と成績評価を行うので、受講生はレポート等が未提出にならないように十分注意すること。最終の総括レポートのために、各回の講義内容は、欠かさずノートにまとめておくこと。

※再履修者と一部留学生向けにオンデマンド録画配信を行う予定です。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
経済政策学科	専門教育科目, 学科基礎科目	2021, 2022	1	選択	2
経済政策学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024	1	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 福祉の基礎科目	2021, 2022	1	選択	2
社会福祉学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024	1	選択	2
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024	1	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
心理学と心理的支援	前期(半年)	A03102524681Z

教員名
開 浩一

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	福祉現場でカウンセリングをしてきた経験を活かしながら心理学を紹介していきます。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要
<p>心理学とは、人間の行動や精神的過程を科学的に探求する学問です。この授業では、発達心理学、学習心理学、社会心理学、臨床心理学にわたる心理学全般の基本的知見を概観し、心理学がどのような学問であるかについての理解を深めていきます。</p> <p>また、ソーシャルワーク実践において求められる心理学の基礎的知識と心理的支援の実践の理解を一体的により深めていきます。</p>

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
・心理について学びたいという好奇心があることが望ましい。

学習上の到達目標	授業の到達目標												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>達成評価指標</th> <th>レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技術力</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションスキル</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>社会的関係形成力</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>多文化理解力</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>問題解決力</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	達成評価指標	レベル	知識・技術力	1	コミュニケーションスキル	1	社会的関係形成力	1	多文化理解力	1	問題解決力	1	<p>知識技術力 心理学の観点から、人の心や行動を理解できる。</p> <p>コミュニケーションスキル グループワークを通して自分の考えを相手に伝えるように伝え、相手の話にも耳を傾けられる。</p> <p>社会的関係形成力 他者を尊重した関係をつくることに役立てられる。</p> <p>多文化理解力 自分とは異なる文化的背景をもつ人の理解に役立てられる。</p> <p>問題解決力 心理的支援の方法と実際を学び、自分や人の問題を未然に防いだり、問題を解決するために応用できる。</p> <p>自己実現力</p>
達成評価指標	レベル												
知識・技術力	1												
コミュニケーションスキル	1												
社会的関係形成力	1												
多文化理解力	1												
問題解決力	1												

自己実現力	1	他者評価に依存しすぎることなく、自己肯定感を自分で育めるようになる。
-------	---	------------------------------------

講義等の計画

第1回 テーマ：心理学の定義、歴史、研究法・対象心を探求する方法の発展	キーワード：心理学の起源と発展、研究法など
第2回 テーマ：脳・神経の働き	キーワード：神経、脳機能、遺伝など
第3回 テーマ：心理的発達	キーワード：発達の基本的理解、認知発達理論、ライフサイクル、言語発達、アタッチメント理論など
第4回 テーマ：知覚	キーワード：感覚・知覚、知覚の情報処理過程
第5回 テーマ：学習と条件付け	キーワード：レスポナント・オペラント条件付け、社会的学習など
第6回 テーマ：情動	キーワード：ジェームス・ランゲ説、キャノン・バード説など
第7回 テーマ：動機づけ	キーワード：欲求階層説、内発的・外発的動機づけなど
第8回 テーマ：記憶・知能	キーワード：短期・長期記憶、知能検査、など
第9回 テーマ：意識	キーワード：無意識、夢、睡眠など
第10回 テーマ：パーソナリティ	キーワード：性格検査、類型論、特性論など
第11回 テーマ：ストレス・健康・コーピング	キーワード：ストレス、コーピング、レジリエンス、PTGなど
第12回 テーマ：精神障害	キーワード：心理アセスメント、精神障害など
第13回 テーマ：精神障害の治療	キーワード：ソーシャルワーカー、公認心理師、精神分析、応用行動療法、認知行動療法など
第14回 テーマ：社会の影響	キーワード：自己、対人関係、集団、組織など
第15回 テーマ：心理学まとめ	キーワード：心理学まとめ

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

夢実験の課題：自分がみたい夢を実際にみることができるか1週間試みる課題です（第9回授業の課題）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業においてフィードバックシートの提出を義務付けています。

この授業に含むアクティブラーニング要素

この授業に含むアクティブラーニング要素		具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input type="checkbox"/>	心理学の重要なキーワードについて小グループでディスカッションする。
ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/>	
グループワーク	<input checked="" type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

授業への参加状況、取り組み態度40%
試験60%

教科書

毎回、PDF資料を配信します

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

- 1 [無藤隆、森敏昭、遠藤由美、玉瀬耕治、\(2018\)、心理学、有斐閣](#)
- 2 [Nolen-Hoeksema, S., Fredrickson, B. L., Loftus, G. R., & Lutz, C. \(2014\). 16 th edition Atkinson & Hilgard Introduction to Psychology](#)
- 3 [一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、\(2021\)、最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座、心理学と心理的支援、中央法規](#)

履修上の注意事項や学習上の助言

【履修登録について】

入学年度で科目名が違います。下記の科目を履修登録してください。

- ・2021年度以降の入学生・・・「心理学と心理的支援」
- ・2020年度以前の入学生・・・「心理学」

【社会福祉学科の皆様へ】

本科目は、社会福祉士、及び、精神保健福祉士の共通科目となります。資格取得希望者は必ず履修してください。

【多文化コミュニケーション学科や経済政策学科の皆さんへ】

この科目は、福祉の資格取得に関わる科目であるため、国家試験の問題についても授業内で紹介することご了承ください。ただし、心理学を基礎からわかりやすく学べる授業となります。心理学に興味のある方が受講の対象となります。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
経済政策学科	コアモジュール	2023	2	選択	1
社会福祉学科	コアモジュール	2023	2	選択	1
多文化コミュニケーション学科	コアモジュール	2023	2	選択	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
P B L II 公務員の星	前期(半年)	A04205424802J

教員名
井川 博行

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	・地方公務員（長崎県庁）の実務経験に基づき、具体的な自治体の課題解決能力を養成するための実践的な授業内容・方法で実施

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・「全体の奉仕者」としての公務員の仕事の深い理解を図る。（中級レベル） ・実際の県内自治体（県・市町）の具体的かつ困難な地域課題解決を通して、公務員の資質と能力を養う。（中級レベル） ・公務員を志望するモチベーション維持のための共同学習を行う ・公務員採用試験の概要を把握し、志望自治体の決定を行えるようにする。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
自主学习：「地方公共団体の種類」、「地方自治法」、「地方公務員法」のさらに深い理解を図る。 公務員試験対策としての、憲法、民法、行政法などの重要科目の自主学习

学習上の到達目標	授業の到達目標
達成評価指標 レベル 知識・技術力 コミュニケーションスキル 社会的関係形成力 多文化理解力 問題解決力 自己実現力	<ul style="list-style-type: none"> ・「全体の奉仕者」としての公務員の仕事の深い理解を図る。（中級レベル） ・実際の県内自治体（県・市町）の具体的かつ困難な地域課題解決を通して、公務員の資質と能力を養う。（中級レベル） ・公務員を志望するモチベーション維持のための共同学習を行う ・公務員採用試験の概要を把握し、志望自治体の決定を行えるようにする。

講義等の計画	
第1回 テーマ：オリエンテーション 公務員の仕事の概要の復習（中級）	キーワード：公務員の仕事
第2回 テーマ：地方公共団体の仕事の概要（中級）	キーワード：地方公共団体
第3回 テーマ：「地方自治法」学習（中級）演習	キーワード：地方自治法

第4回 テーマ： 「地方公務員法」学習（中級）演習	キーワード：地方公務員法
第5回 テーマ： 課題解決ワーク ①長崎県政（中級）	キーワード：長崎県政
第6回 テーマ： 課題解決ワーク ②諫早市政（中級）	キーワード：諫早市政
第7回 テーマ： 課題解決ワーク ③大村市政（中級）	キーワード：大村市政
第8回 テーマ： 公務員の資質と能力（中級）	キーワード：公務員の資質と能力
第9回 テーマ： 志望自治体の決定発表、ディスカッション	キーワード：各志望先公務員試験情報
第10回 テーマ： 志望先の公務員採用試験の概要分析・発表	キーワード：各志望先公務員試験情報
第11回 テーマ： 公務員採用試験 重要長期学習必須科目対策 ①文章理解（中級）	キーワード：公務員試験 文章理解
第12回 テーマ： 公務員採用試験 重要長期学習必須科目対策 ②数的処理	キーワード：公務員試験 数的処理
第13回 テーマ： 公務員採用試験 重要長期学習必須科目対策 ③英文読解	キーワード：公務員試験 英文読解
第14回 テーマ： 公務員採用試験 面接・集団討論対策	キーワード：公務員試験 面接・集団討論

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

授業時間外学習時間目安：300時間（PBL2 前期半年）

4年生の公務員試験受験までの自主学習トータル累計時間1500時間が目安、計画的な学習計画作成と実行が望ましい。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

添削、個別指導

この授業に含むアクティブラーニング要素

	<input checked="" type="checkbox"/>	具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input checked="" type="checkbox"/>	外部機関（県、市町）の講座 外部機関（県、市町）提供の課題解決 外部機関（県、市町）訪問 集団面接・集団討論グループワーク、ディスカッション 公務員試験解答プレゼンテーション
ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/>	
グループワーク	<input checked="" type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input checked="" type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

- ・主体的な授業参加態度（積極性・授業理解度）：40%
- ・課題の提出、小テスト：40%
- ・授業運営協力、プレゼンテーション：20%

※100点満点での比率を示す。

教科書

特に指定せず、講義ごとに資料を配布します。

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

- 1 [公務員試験 新ｽｰﾊﾟｰ過去問ゼミ](#)

履修上の注意事項や学習上の助言

授業時間外学習時間目安：300時間（PBL2 前期半年）

4年生の公務員試験受験までの自主学習トータル累計時間1500時間が目安、計画的な学習計画作成が望ましい。

[戻る](#)

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018	2	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020	2	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	2	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 関連科目	2023	2	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	2	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2020, 2021, 2022	2	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 関連科目	2023	2	選択	2
多文化コミュニケーション学科	専門教育科目, 学科関連科目	2019, 2020, 2021, 2022, 2023	2	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
学習・発達心理学	前期(半年)	F12210124505Z, B08208424505Z, E07205524505Z

教員名
綿巻 徹

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	スクールカウンセラーから見た小中高生の発達状況について解説する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要
心はどのように変化していくのかを、受精から死を迎えるまでの生涯発達の視点から見ていく。胎児期から乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、発達の変化と特徴を理解する。こうした基礎知識を学び、教育や子育てなど人としての生き方を考える応用力を養えるようにする。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
特になし。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	2	心の発達について各発達段階における特徴を理解する。また、発達に関する知識を教育実践に応用できる力を身につける。そのため、具体的な目標として、(1)人間の発達についての理論を知る(2)発達の研究について理解する(3)日常生活や教育の場面でどのように役立てることができるかを理解し、応用できるようにする。
コミュニケーションスキル	2	
社会的関係形成力	2	
多文化理解力	2	
問題解決力	2	
自己実現力	2	

講義等の計画

第1回 テーマ： 発達とは	
第2回 テーマ： 発達研究の方法	
第3回 テーマ： 発達の理論	
第4回 テーマ： ピアジェの発達理論	
第5回 テーマ： 周産期の心の発達	
第6回 テーマ： 乳児期の心の発達	
第7回 テーマ： 幼児期の心の発達	
第8回 テーマ： 児童前期の心の発達	
第9回 テーマ： 児童後期の心の発達	
第10回 テーマ： 青年期の心の発達	
第11回 テーマ： アイデンティティとモラトリアム	
第12回 テーマ： 成人期の心の発達	
第13回 テーマ： 老年期の心の発達	
第14回 テーマ： 発達障害の理解	
第15回 テーマ： 発達と教育	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

予習： 関係する書籍・文献を読む	15時間
復習： 授業中に配付した資料や紹介した文献を読む	30時間

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この授業に含むアクティブラーニング要素

		具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input type="checkbox"/>	<div style="border: 1px solid black; height: 150px;"></div>
ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/>	
グループワーク	<input type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

- 実施している 実施していない

成績評価基準・方法

期末試験（レポート）の成績により評価する。

教科書

授業資料のプリントを配付する。

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

講義内容に応じて、その都度紹介する。

履修上の注意事項や学習上の助言

特になし。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 地域政策コース	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 地域政策コース	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2020, 2021, 2022	3	選択	2
多文化コミュニケーション学科	専門教育科目, 学科関連科目	2019, 2020, 2021, 2022	3	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
生涯学習・社会教育論（教職）	前期（半年）	B08308724506Z, E07305824506Z, F12310224506Z

教員名

菅原 良子

実務経験のある教員による授業科目

実務経験に基づいた教授内容・方法

○

環境学習をテーマに講師を務めている方に来ていただき、実際に地域でおこなわれている講座と同じように自然物を教材とした出前講座をしていただき、社会教育での学びを体験する。また、日程の都合が合えば行政の社会教育担当者、行政の社会教育の取り組みについて講義していただく予定である。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要

本科目は、社会福祉学科・外国語学科・経済政策学科の専門教育科目であると同時に、教職に関する科目の「教育の基礎的理解に関する科目等」における「教育の基礎的理解に関する科目」の「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に位置づく教職課程科目である

社会教育とは学校教育以外の領域で組織される多様な教育・学習活動を指し、その特色は地域を基盤として自主的な学習として展開されるところにある。日本では1980年代に生涯学習政策が導入されて以降、社会教育と学校教育の在り方が大きく変わってきている。本授業では、社会教育とは何か、生涯学習とは何か、社会教育・生涯学習の歴史と理念などの生涯学習と社会教育に関する基本的な事項について学ぶとともに、社会教育と学校教育の対比や連携、社会教育と生涯学習との違い、学習の必要性和多様な学習のあり方などについての理解を深めていく。講義だけでなくグループワークもとりいれながら授業を進めていく。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

日ごろから地域で行われている教育について興味・関心を持ち、生涯学習と社会教育について自分なりに調べておくこと。

学習上の到達目標

授業の到達目標

達成評価指標	レベル	
知識・技術力	3	1. 生涯学習とは何か、社会教育とは何か、生涯学習・社会教育の必要性や多様な学びの内容・方法について、自分なりに理解し、説明することができる（知識・技術力） 2. グループワークの中で、自分の考えを述べ、他者の意見にも耳を傾けながら。協力してワークを進めることができる（社会的関係形成力） 3. 自分とは異なる意見や価値観。文化について理解しようと努めるとともに、様々な事象について多角的な視点から捉えることができる（多文化理解力） 4. 地域や教育・学習に関わる様々な問題の事象や背景について多角的な視点から捉え分析するとともに、具体的な解決策を複数提示することができる（問題解決力）
コミュニケーションスキル		
社会的関係形成力	2	
多文化理解力	2	
問題解決力	3	
自己実現力		

講義等の計画	
第1回 テーマ： 授業の目的と概要、到達目標や評価方法の説明 社会教育・生涯学習の概念	キーワード：教育、生涯学習、学校教育、家庭教育、社会教育、地域 課題：シラバスを読んでくこと 参考資料：シラバス
第2回 テーマ： 生涯学習・社会教育のイメージ1 社会教育と生涯学習	キーワード：生涯学習、学校教育、家庭教育、社会教育 課題：生涯学習とは何か
第3回 テーマ： 生涯学習と社会教育のイメージ2 学習とは何か	キーワード：生活と学習、学校・家庭・社会・地域
第4回 テーマ： 生涯学習と社会教育のイメージ3 学習の必要性	キーワード：教育、学習、知識、経験、人間の発達 課題：生涯学習と社会教育の違いについて
第5回 テーマ：社会教育の歴史と理念① 戦前・戦中期	キーワード：通俗教育、成人教育、教化、青年団 課題：アメリカの占領政策
第6回 テーマ：社会教育の歴史と理念② 1945年～1960年代	キーワード：民主主義、自己教育
第7回 テーマ：社会教育・生涯学習をめぐる国際的な動向	キーワード：ユネスコ、P. ラングラン、E. ジェルピ、学習の4つの柱 課題：4つの柱
第8回 テーマ： 生涯学習論の登場と社会教育の歴史と理念 1960年代～現在	キーワード：公民館、権利としての社会教育、社会教育と生涯学習 課題：4つのテーゼ
第9回 テーマ：学習権宣言の意義と内容	キーワード：ユネスコ、学習権宣言 課題：学習権宣言の意義
第10回 テーマ：生涯学習・社会教育の法と制度	キーワード：社会教育法、図書館法、博物館法、生涯学習振興法 課題：社会教育法・図書館法・博物館法・生涯学習振興法
第11回 テーマ：生涯学習・社会教育の施設	キーワード：公民館、図書館、博物館 課題：生涯学習・社会教育に関する施設を一つとりあげ調べてくる
第12回 テーマ： 生涯学習・社会教育における学び① 学習形態と方法	キーワード：学習の概念、学習のモデル、学習活動の構成者
第13回 テーマ： 生涯学習・社会教育における学び② 地域課題の解決方法	キーワード：地域課題
第14回 テーマ： 生涯学習・社会教育における学び③ 地域での実際の取り組み	キーワード：学習活動
第15回 テーマ：	キーワード：生活と学習、学校、家庭、社会・地域、コミュニティの再生

生涯学習・社会教育における学び④ 地域でおこなわれている 学習活動・学びの多様性	
第16回 テーマ :	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

日ごろから学習の意味について考えるとともに、毎回の授業後にプリント・ノートを見返し、疑問点などを調べたり質問したりするなどの復習を行うこと。授業中に提示された課題にとりくむこと。
また、参考文献を最低1冊は読むとともに、実際に自分が住んでいる地域にある生涯学習・社会教育施設を一度は訪ねること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の課題及び最終レポートについては、以下の方法のいずれかにおいてフィードバックを行う。①授業中の解説、②授業中もしくはメールやgoogle classroomなどの採点欄による添削結果の返却。

この授業に含むアクティブラーニング要素

外部機関と連携した課題解決型学習	<input type="checkbox"/>	具体的な内容
ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/>	課題テーマについて、グループワークやディスカッション及びその結果や事前学習内容に関するプレゼンテーション
グループワーク	<input checked="" type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

毎回の講義で提出してもらった授業レポートと授業への参加態度（30%）、講義中や講義最終時の課題（レポートあるいは試験）（70%）により評価する。原則として出席が出席すべき講義回数の3分の2を満たしていない場合は評価の対象としない。欠席・遅刻は減点対象とする。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布。

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称
1 片野親義『社会教育における出会いと学び』（ひとなる書房、2002年ひとなる書房）
2 片野親義『学びの原風景をさがし求めて』（国土社、2005年）
3 佐藤一子『地域学習の創造：地域再生への学びを拓く』（東京大学出版会、2015年）
4 大串隆吉『社会教育入門』（有信堂、2008年）
5 国生寿・吉富啓一郎『社会教育と現代的課題の学習』（あいり出版、2006年）
6 千野陽一（監修）、社会教育推進全国協議会（編集）『現代日本の社会教育〈増補版〉—社会教育運動の展開』（エイデル研究所、2015年）
7 寺中作雄『社会教育法解説 公民館の建設』（国土社、1995年）
8 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』第8版（エイデル研究所、2011年）
9 全国公民館連合会（著）『新訂 よくわかる公民館のしごと』（第一法規株式会社、2017年）
10 浅井 経子ほか『生涯学習支援の道具箱』（社会通信教育協会、2019年）

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・授業ではゲストティーチャーの方にいらしていただく場合もある。授業の計画については、授業の進行状況や履修者のテーマへの興味関心などにより、計画通り進まないこともある。毎回の授業終了後に授業レポートを提出すること。本授業は教職科目でもあるため、自覚的・主体的な態度を求める。グループワークも行うので積極的な参加を望む。
- ・学外での活動なども授業中に紹介するので、積極的に参加すること。
- ・本授業は天候状況などにより、授業の方法や内容などが変更される場合がある。その場合の詳細については、その都度授業やgoogle classroomなどで説明するので留意すること。

[戻る](#)

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	専門科目, 関連科目	2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
外国語学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018	3	選択	2
経済政策学科	専門科目, 関連科目	2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	3	選択	2
社会福祉学科	専門科目, 展開科目	2010, 2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2020, 2021, 2022	3	選択	2
多文化コミュニケーション学科	専門教育科目, 学科関連科目	2019, 2020, 2021, 2022	3	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
教育相談・カウンセリング（教職）	後期（集中）	B08308624507Z, E07305724507Z, F12310324507Z

教員名
内野 成美

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	教育現場における不登校・いじめなどに関して学校の取組みの現状、スクールカウンセラーの関与の実際を紹介する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要
本講義では、学校で教師が教育相談をおこなうにあたって有しておくべき知識を身に着ける。まず、いろいろな相談場面での教師の役割・ありかたについて説明し、つづいて教育相談に関連する心理学（カウンセリング）の知識を伝える。これにより、知識・技術力および多文化理解力を高める。講義中、学問的な情報の伝達に加え、ロールプレイやグループ・ディスカッションなどの体験的な活動も組み込み、コミュニケーションスキルや問題解決力を養う。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
教職課程履修者は同時期に開講される「生徒・進路指導論」を受講しなければならない。

学習上の到達目標	授業の到達目標						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>達成評価指標</th> <th>レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技術力</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションスキル</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	達成評価指標	レベル	知識・技術力	3	コミュニケーションスキル	3	1 専門知識に基づいて生徒の気持ちを理解しようとする教師になること。 2 学校内でのチームワークを重視する教師になること。
達成評価指標	レベル						
知識・技術力	3						
コミュニケーションスキル	3						

社会的関係形成力	3	3 保護者と良好な関係を持ち、アドバイスができる教師になること。
多文化理解力	3	
問題解決力	3	
自己実現力	3	

講義等の計画

第1回 テーマ：オリエンテーション	
第2回 テーマ：教育機関としての学校、組織としての学校	
第3回 テーマ：担任教諭の役割	
第4回 テーマ：生徒指導	
第5回 テーマ：教育相談・1：生徒の心の理解	
第6回 テーマ：教育相談・2：生徒の心の病気の理解	
第7回 テーマ：教育相談・3：生徒と教師の関係	
第8回 テーマ：教育相談・4：保護者と教師の関係	
第9回 テーマ： 教育相談・5：教師同士の関係、管理職者との関係	
第10回 テーマ： カウンセリング・1：クライアント中心療法	
第11回 テーマ： カウンセリング・2：行動療法と認知行動療法	
第12回 テーマ： カウンセリング・3：精神分析療法と箱庭療法	
第13回 テーマ： カウンセリング・4：いじめ問題へのカウンセリング	
第14回 テーマ： カウンセリング・5：発達障害を有する生徒へのカウンセリング	
第15回 テーマ： カウンセリング・6：不登校生徒へのカウンセリング	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

予習：関係する書籍・論文を読む	20時間
復習：授業中に配布した資料や紹介した文献を読む	40時間

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この授業に含むアクティブラーニング要素

	<input type="checkbox"/>	具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input type="checkbox"/>	<div style="border: 1px solid black; height: 150px;"></div>
ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/>	
グループワーク	<input type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

- 実施している
 実施していない

成績評価基準・方法

期末試験の成績により評価する。

教科書

用いない。毎回、プリントを配布し、そのプリントに沿って講義をおこなう。

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

『学習指導要領』

他の参考書については、講義内容に応じ、その都度紹介する。

履修上の注意事項や学習上の助言

教職課程履修者の場合、本講義は「必修科目」である。

戻る